

十二年前。日本に輸入された中国製の冷とうギョーザで、けいれんを起こしたり意識を失ったりする人が相次いだ。後に大量の殺虫剤¹が入れられていたことが分かり、人々に衝撃²を与えた。

「食の安全」に対し、作る側は大きな責任を負う。ぬかりなく検査する。うそのない商品情報を発信する。信用を失わないためにも、そういったことを確実に実行し続けるしかない。

埼玉県の菓子会社は、季節に合ったジャガイモをポテトチップスに使い、そのことをホームページで公開している。大手メーカーのカルビーも同様。ホームページで生産者を紹介中で、菓子のふくろにもそのことを記している。

安全な原材料の確保については、給食も同じだ。地産地消が進む高知県ではどこの産品か分かるよう、こんだて表に書いていたりする。

ホームページやこんだて表をしっかりと見る。食べる側のそんな行動が、作る側に「食の安全」への責任をより強く意識させる。ホームページの開設者は、アクセス数が分かるようになっていた。